

<b>Title</b>	信仰者にとっての心の病(カウンセリング研究センター臨床死生学研究講演)
<b>Author(s)</b>	徳田, 信
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.2, 2013.1 : 19-20
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4343">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4343</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## カウンセリング研究センター 臨床死生学研究講演会 信仰者にとっての心の病



元 社会福祉法人賛育会 賛育会病院 院長  
関根義夫氏

2012年7月13日、聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センターにより、講演会「信仰者にとっての心の病」が開催された。講師は関根義夫氏(元 社会福祉法人賛育会 賛育会病院 院長)で、99名の参加があった。関根氏は、精神科医として病気の治療をされると共に、無教会のキリスト者として浦和キリスト集會を主催してこられた。

以下は、講演内容と質疑応答の概要である。

まず、信仰者も心の病にかかることがあることを理解しなければならない。心の病にかかったりそれが癒されないのは、信仰が足りなかったり間違っているから、と言うことはできない。信仰者であっても、心の病には適切な精神医学的な治療が必要であり、治療を受けることは信仰の否定を意味しない。むしろ精神医学的治療も、神の恵みと受け取るべきである。

以上のことを踏まえて、三つの事例が紹介された。一つ目の青年男性と二つ目の治療経過20余年の女性は、共に関根氏が直接関わった事例である。三つ目の事例で取り上げられた高倉徳太郎は、大正から昭和初期にかけての著名な牧師・神学者である。

一つ目の事例。この青年男性は関根氏とは信仰

的な先輩後輩の間柄であった。ある日突然に家を出て消息不明になり、3年余り経過してから自宅近くの古い横穴で発見された。遺体はその胸に英文聖書をしっかりと抱いていた。「礼拝が終わった直後が一番のんびりする。もっと続けてほしいと思う」という言葉や、A. シュバイツァーの「私の認識は悲観だが、希望は楽観である」という言葉を語っていた。真面目で正義感が強く、浪人を重ねて大学哲学科に入ったが、やがて精神科に通い始めた。繊細な心の持ち主だった。

二つ目の事例。この女性は初診時二十代後半で、クリスチャン家庭に育ったが長く教会生活から離れていた。高校の頃から拒食やリストカットがあり、その後も戸締りやガス・水道栓の執拗な確認、また加害不安に苛まれてきた。ある牧師との出会いで礼拝に出席するようになり、受洗。礼拝に出ることは喜びであったが、症状は必ずしも改善しなかった。抗鬱、抗不安の薬を飲んでもらうことで改善を見ることができた。

三つ目の事例。高倉徳太郎牧師(1885~1934)は、1932年頃に発病し、二年ほど病に苦しんだ後、1934年4月に自ら生命を断った。公刊されている日記には高倉の様々な心身不調症状が表れており、「うつ病相」が何度か反復している。また、重篤な心身不調状態にあっても、死の直前まで常に、神への感謝と依り頼みの姿勢は崩れることがなかった。



このような高倉がなぜ自ら命を絶ったのか。関根氏は高倉の元来の「人となり」に注目する。高倉は徹底的な責任感、正義感、そしてどこまでも良心的な姿勢を大切にしていた。また行動力もあり、有能な指導者として社会的に高い評価を受けた。しかしその「人となり」のゆえに、意識せずして過大な負担を自身の心身に貸すことになり、過労・疲弊状態に至らしめたのではないか。

高倉は諸教会の改革を志し、性急に成し遂げようとした。しかし、それは本来息長く続けられるべきものである。また、自らの心身の不調を、信仰の足らなさによる結果と考え、ますます自らの信仰を徹底させ、その不足を補うべく努力して心身不調状態を克服しようとした。高倉の死は、神と教会に対する熱心・責任感の裏返しかもしれない。

以上が関根氏による講演の概要であり、その後、質疑応答が活発に交わされた。主に高倉の事例についてと、関根氏自身についての質問が多数寄せられた。最後に、ケアの基本は何よりも患者と「共にいること」であり、またそれがキリスト教の話を通じて直接するよりも優先すべきことが語られ、講演が閉じられた。

(とくだ・まこと 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科博士後期課程)

## 聖学院大学出版会の本

### スピリチュアルケアを学ぶ シリーズ



生きる意味や人生の目的を失い、心の癒やしを求める現代人のために。心理学や精神医学の領域を超えた魂のケアを学ぶシリーズ。

#### シリーズ1巻

### 癒やしを求める魂の渇き

窪寺 俊之 編著

定価：1,800円＋税

ISBN978-4-915832-90-1 C0311

#### シリーズ2巻

### スピリチュアルペインに向き合う

窪寺 俊之 編著

定価：2,100円＋税

ISBN978-4-915832-94-9 C0311

全国の書店でご注文・お取り寄せいただけます。  
amazon.co.jp でもご購入いただけます。

お問い合わせ先

聖学院大学出版会 TEL 048-725-9801

書籍の詳細は大学出版部協会ホームページに掲載されています。

ご覧いただければ幸いです。

アドレス <http://www.ajup-net.com/>